



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける』

聖書(マタイ福音書5章22節)

牧師 河合裕志

イエスはとんでもないことを言う。兄弟に腹を立てた位でなんで裁きを受けなければならぬ？それは極端というもの。こんな感想を誰でも持つのでは？

この前のところでイエスはこう述べている。『昔の人は、殺すな。人を殺した者は裁きを受ける、と命じられている。しかし、わたしは言うておく』。殺人者は裁きを受ける、これはわかる。厳正な裁きが下されなければいけない。人を殺す位重い罪はない。

こうしたごく常識的な考え方に対して「しかしわたしは言うておく」と、腹を立てる者も裁きを受けることになるよと述べた。人を殺さない位で満足してはいけぬ。それに先立つ心の動き、これを問題視したということか。そうなんだろう。

人を殺す、そこにはいろんな場合が考えられるけれど怨恨によるものも結構ありそう。恨み。あん畜生の思い。馬鹿にされた、差別された、だまされた、裏切られた、不利益をこうむった、不当に解雇された…様々な場面で恨みの感情、腹を立てることが起こってくる。これが骨髓に徹って殺害に及ぶということになりかねない。

イエスはここに注目しているのだろう。立腹が殺人に至ることを心配し、前段階でこの芽をつぶしておくように、腹なんか立

てないように、人を恨むことなんてないように。もしそうした黒い感情がムラムラとわき起って来たならその時点で裁きの対象になるよ、と。この裁きはもはや神による裁き。人間には外側に出た仕業しか裁けない。

おこっちゃんいけねえ、おこっちゃんいけねえ、と覚えつつもつい怒り心頭に発するのが私達では？それはいつも心は平らでいたい、穏やかでいたい、何事も大目に見る、寛大な心で見ると、赦しの心を忘れない、そんなふうでいたいと思う。しかしこちらは生身の人間、そうは行かない。

どうしたらそうなれるんだろう。別になりたいとも思わない？なりたいた人は次のことを心に覚えていくらか効果があるかも。①自分の側に何か反省点、至らなかった点はなかったかな。自分のことは棚に上げて一方的にあいつが悪いと決めつけていないか。②神はこの人の命も創造しこの人を愛している。私だけが神によって愛されている訳ではない。③イエスが十字架にかかって死んだのは私の罪が赦されるためだが、同じようにイエスはあの人のことも愛し十字架についている。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時